JHFレポート　195号　JHF
最新情報・バックナンバーはウェブサイトでご覧ください。
http://jhf.hangpara.or.jp
Japan Hang&Paragliding Federation　公益社団法人 日本ハング･パラグライディング連盟 発行

公益社団法人移行後初の総会を開催

2011年6月14日（火）、11時から17時まで、東京都の東京体育館第一会議室において、総会を開催しました。正会員（都道府県連盟）47名中、合計出席者46名（出席40、委任状2、議決権行使4、欠席1）。今年4月1日に公益社団法人へ移行後、初めての総会であり、新定款により内田孝也会長が議長を務めました。

決議事項ならびに報告事項は下記のとおりです。

□報告事項1：2010年度事業報告
□報告事項2：2010年度決算報告・監査報告
□決議事項1：貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
□報告事項3：2011年度事業計画
□報告事項4：2011年度収支予算
□決議事項2：JHF役員の選任

新しい定款のもとで開催した初めての総会

決議事項1が承認され、決議事項2の役員選任については、選挙管理委員会によって役員選任投票が行われ、下記の5名の理事と2名の監事が選任されました。

［理事］
内田孝也（東京都）
大澤　豊（茨城県）
工藤修二（埼玉県）
安田英二郎（神奈川県）
山口淳一（神奈川県）
［監事］
市川　孝（埼玉県）
對馬和也（埼玉県）

尚、理事については定款に定める最小定数の6名に満たなかったため、正会員より総会の場で議案が提出され、今回の役員選任に立候補しなかった前年度理事の中で引き続き理事の責務を果たすことに同意された下記2名の方が、理事として選任されました。

［理事］
荒井健雄（栃木県）
菊池守男（神奈川県）

2011年度・2012年度は、この7名の理事がJHF運営の推進役として活動していきます。

報告事項の2010年度事業・決算報告や2011年度事業計画・予算等は、JHFレポート194号またはJHFウェブサイトの「情報公開について」をご覧ください。

モンテクッコからテイクオフした大門浩二　HG世界選手権で日本最高の4位に（6・7ページに記事あり）

理事・監事の抱負

□会長　内田孝也
担当：予算編成、渉外、国際技能記章、CIVL海外、その他全般

普及・振興につながる諸活動を活性化させていきます。また、資金を健全に投下し、事業を促進します。事務局のビルが耐震基準を満たしていないため、職員の安全のため、早急に引越しを準備します。

三期目の会長を務めさせていただきます。各地からの提言や総会での意見集約により、改善や成長のための宿題が幾つもあります。たとえば、安全セミナーのプログラム化、補助動力のテキスト、ハンググライディング（以下HG）教本の改訂、パラグライディング（以下PG）基礎技術の模範映像化、

JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHF事務局が移転します！

現在の事務所は耐震基準を満たしていないため、年内の移転を予定しています。新住所：〒114-0015　東京都北区中里1-1-1-301
電話番号等はJHFウェブサイトやJHFレポートでご案内します。

教員のためのインストラクションマニュアル等々。これらの事業を前に進めていきます。

□副会長　安田英二郎

担当：広報出版、予算編成、渉外、補助動力委員会、制度委員会、ハングパラ振興委員会

HG、PGの普及のために写真や映像の露出を増やすこと、そして、潜在的に興味を持つ人に興味ある情報を提供し、スクールへと導いていくこと、そのために努力していきます。

□理事　荒井健雄

担当：教員・スクール事業委員会

会員を増やすことに全力を挙げます。

□理事　大澤豊

担当：レジャー航空無線、CIVL海外、普及事業、PG競技委員会、HG競技委員会

JHF所有のレジャー航空無線はイベントや大会等に使用されていますが、経年に依り故障も増えているため、個人所有で、5チャンネル空中使用のできるデジタル無線機への転換を推進します。団体、個人が行っている普及事業を、JHFとして支援するための窓口となり協力していきます。またPG、HG競技の安全、公平な運営ができるよう協力します。

□理事　菊池守男

担当：国際技能記章、安全性委員会

事故を減らすため、安全啓蒙について考えていきたいと思います。

□理事　工藤修二

担当：広報出版、レジャー航空無線、普及事業、PG競技委員会、安全性委員会、ハングパラ振興委員会

理事2期目も以下の問題について努力していきたいと思います。

1.フライヤーの増加

左から、大澤、工藤、山口、内田、安田、荒井各理事

一般の方に見ていただく事もフライヤーの増加に寄与するものと考え、トーイング競技などイベントの開催に力を入れていきます。

2.フライヤーの声を吸い上げる

教員、助教員の名称を指導員、準指導員に変更してほしいという要望が多くあり、私の力不足のため未だ変更に至らず申し訳なく思います。今後も継続してフライヤーの声を吸い上げていきますのでよろしくお願いします。

3.フライヤーのための提案

JHF本来のフライヤーのフライヤーのための提案を続け、JHFの組織活動に貢献することに頑張っていきます。

□理事　山口淳一

担当：補助動力委員会、教員・スクール事業委員会

まず、補助動力テキストを作ります。他に普及活動の推進、都道府県連盟の支援を考えていきます。

□監事　市川孝

本年4月にJHFは「公益社団法人」となりました。今後、新法人として内閣府への報告書提出など、従来よりも厳しい作業が求められますので、こうした作業に従事するとともに、事務局業務の手助けをします。JHFの事業は多くの方々のために公益性があることが基本ですが、それを実証するために、財務状況についても（1）公益目的事業比率（公益目的事業が50%以上になっているか）、（2）遊休財産の基準（事業をあまりせず経費を貯めこんでいないか）、（3）収支相償（年度の収入が支出を大幅に上回っていないか）などのチェックを受けることとなります。公

新潟県鳴倉山でのPG日本選手権より。

益社団法人の資格は、JHFがHG・PGの日本における唯一の統括団体として内閣総理大臣が認めたものですので、この資格の維持とさらなる発展のために尽力します。

□監事　對馬和也

JHF財政維持のため、第三者賠償の保険料に注目しています。自動車保険等に第三者賠償を付与してあればJHF保険と損害金が折半になります。2年前の総会で内田会長がクレジットカードに保険が付与されている場合があると説明しましたが、現在は付いていません。事故を減少させるために第三者賠償保険の発生率を把握するには、PG、HG、モーター別に発生件数、賠償金額、母集団となるフライヤー会員を区分した人数を把握するシステムへの修正が必要と考えます。

委員会の新メンバーが決まりました／あなたもJHFに力を貸してください

JHFには、その活動を支える七つの常設委員会があります。現在の委員は2010年4月に就任していますが、定員に満たない委員会がありました。今年度、新たに下記の3名の方のご応募があり、それぞれ理事会で承認され、委員としての活動を開始しています。

□ハングパラ振興委員会（4月19日理事会承認）　小島章弘

□制度委員会（7月12日理事会承認）　泉　秀樹、井上　潔

下記の委員会は定員に達していないため引き続き委員を募集しています。ぜひ、あなたの力を貸してください。（　）内は募集人数です。応募用紙はJHFウェブサイトのフライヤーサポートデスクからダウンロードしていただくか事務局にご連絡ください。任期は2012年3月31日までです。

□制度委員会（1名）

□ハングパラ振興委員会（1名）

□補助動力委員会（2名）

JHF公認大会参加はシリアル機のみ パラグライディング公認大会規則に追加

この夏スペインで開催された第12回FAIパラグライディング世界選手権で重大事故が発生。FAI/CIVLより各国統括団体へ下記の通達がありました。

□オープンクラスのコンペ機（セクション7Bで規定されている）のカテゴリー1大会参加を一時的に中止する（期限は切られていません）。

□カテゴリー2大会でも、それ（上記）に準拠することを強く要望する（命令ではありません）。

JHFではこの趣旨を反映するため、JHF公認大会規則に追加項目を設けて実施することを、8月12日文書理事会にて決定しました。

なお、FAI/CIVLは継続して今後のカテゴリー1・2大会の方向性について検討を進めています。新たな方向性が示された場合は、その方向性に基づきJHFとして検討・判断を進めたいと思います。

「パラグライディング公認大会規則」に下記ルールを追加します。

□JHF公認大会に参加できる機体は、シリアル機のみとする。シリアル機とは、EN規準あるいはLTF（DHV）規準に適合していると、CIVLあるいはJHFの認めた認証機関が認定証を発行した機体および認定証を発行された機体と同型機でサイズの違う機体で、どちらも改造されていないものを言う。

□大会主催者は、大会期間中いつでも、選手に対して機体の整備状況や安全性について報告を求め、また、機体を検査することができる。また、安全性に問題があると判断された場合は、その問題が解消されるまで、その機体の使用を制限することができる。

□選手は大会参加に際し、自分の乗る機体がシリアル機であり、改造をしていない旨の声明書を提出しなければならない。

PG日本選手権より。毎日レースを楽しめた

教員・助教員の皆さまへ 技能証規程一部改定／更新講習会のお知らせ

■技能証規程一部改定

7月12日理事会にて、教員助教員更新申請料改定のため、技能証規程を一部改定しました。

現行10,000円　→　改定後5,000円

■教員・助教員更新講習会

教員、助教員技能証の有効期限は3年間です。この年末で期限切れを迎える皆さまには既にご案内していますが、更新申請には、更新講習会の受講が義務付けられています。有効期限が切れている方、今後切れる方は、ご都合がつく会場にお申し込みの上、受講をお願いします。

また更新講習会は、一般フライヤーの方もご参加いただけます。ご希望の方は下記にお問い合わせください（受講料5,000円　他にエリア使用料等がかかる場合があります）。

2011年度教員・助教員更新講習会

□4月9･10日　終了　青森
□6月25日　終了　福岡
□7月30日　終了　熊本
□9月15日　終了　長野
□10月17日　終了　兵庫
□10月23日　終了　愛媛、北海道

□11月11日　静岡県パラフィールド
問い合わせ先：神奈川県ハング・パラグライディング連盟
TEL.0465-63-1364

□11月17日　静岡県スカイ朝霧
問い合わせ先：静岡県フライヤー連盟
TEL.0557-67-1900

□11月19日・20日
福島県三ノ倉または猪苗代
問い合わせ先：福島県ハング・パラグライディング連盟
TEL.0241-36-3363

□12月7日
栃木県AKAIWA PGスクール
問い合わせ先：栃木県ハング・パラグライディング連盟
TEL.028-652-5531

このほか、埼玉県ハング・パラグライディング連盟が12月か1月に開催の予定です。詳細が決まり次第JHFウェブサイトにてお知らせします。

JHFウェブサイトリニューアルのお知らせ

ハンググライダー、パラグライダーを知らない人、これから始めたい人向けに、空を飛ぶことに興味を持ってもらい、スクール・エリアに足を運んでもらうことを目標としてトップページをリニューアルしました。ぜひご覧ください。

選手権報告

今年は三つの世界選手権がヨーロッパで開かれ、日本チームも参戦。
また、三つの日本選手権を国内各地で開催しました。
（詳細は競技委員会のサイト等でご覧ください）

突然の幕引きに不完全燃焼
第12回FAIパラグライディング世界選手権

報告：岡　芳樹

チームリーダー：岡芳樹
ボランティアアシスタント：小泉夫妻
選手：武貞伸明、若山朋晴、成山基義、平木啓子
開催地：スペイン・ピエドライタ
日程：2011年7月3日～7月16日

今回の世界選手権は、スペインの首都マドリッドの西、約140kmに位置する小さな村ピエドライタに、46ヶ国から148人の選手を集めて開催された。ピエドライタは、これまでにも多くの国際大会が開催され、またほぼ毎年のようにイギリス選手権が開催されており、コンディションの良い場所として知られている。もちろんサーマルも強いことで有名なエリアである。

まず平木選手が現地入りし、その他の選手はレジストレーションの前日に現地に到着。サラリーマンパイロットの宿命だ。日本チームが宿舎に選んだのは、村から東に7kmほど離れた長屋形式の田舎宿。キッチンもあり、米の飯が離せない日本人にはもってこいであった。

レジストレーションは、かなり時間はかかったが問題なく終了。気にしていたグライダー、ハーネスのチェックも無く、ヘルメットを簡単にチェックしただけであった。

これまでの世界選手権と特に異なるのは、近年ワールドカップなどで使用されているライブトラッカー（選手の位置をリアルタイムに本部のPCで見られるようにする送信機）の使用と、空域制限がかかる場所があることだ。

公式練習日には、近場を周回する64.1kmのレースが設定され、日本チームは全員がゴール。たった1本でも練習フライトができたことは、初めてのエリアとなる若山、武貞両選手にとっては収穫であった。

競技初日には、早速、東北東方向のセゴビアの先まで直に走る154.1kmのレースが設定され、ゴール者が75名も出るという、エリアのポテンシャルに驚かされる。日本チームは、武貞、若山が途中にランディング。成山が惜しくも800mショート。そして日本チームで唯一ゴールした平木は、痛恨のエリア違反で失格。日本チームとしては散々な結果に。

競技2日目は、やや控えめに、ピエドライタの谷で少し距離を稼いでから東に60kmのアヴィラへ向かう77.1kmのレース。予想より渋いコンディションで心配したが、終わって見れば82名がゴールするボーナスタスク。日本チームは全員がゴールし、これからの弾みにしたいと思っていた矢先、2件の死亡事故が発生したことで、いきなり大会が続けられるかどうかの問題に。主催者ならびに選手が、2日間熟慮を重ね、方策を捻出したが、残念ながら,CIVL（FAI）からの裁定は、オープンクラスのコンペ機の認証を一時的に保留するとの結論で、競技を続行することが不可能となってしまった。しかしルール上、選手権成立の条件は2本飛んだ時点で満たしていることで、世界選手権としては成立することとなった。選手、主催者としては、思いもかけない不完全燃焼な幕切れとなってしまった。

［総合］
1位：Charles Cazaux（フランス）
2位：Luca Donini（イタリア）
3位：Andreas Malecki（ドイツ）
56位：成山　基義
82位：若山　朋晴
91位：武貞　伸明
104位：平木　啓子
［女子］
1位：Petra Slivova（チェコ）
2位：Regula Strasser（スイス）
3位：Kirsty Cameron（イギリス）
8位：平木　啓子
［国別］
1位：フランス
2位：イギリス
3位：スイス
31位：日本

世界一決定戦に相応しい幕開けだったが……

日本チームメンバー

パイロットブリーフィング

総合表彰。左から2位、1位、3位

国別表彰。左から2位、1位、3位

世界はさらに進歩している

第6回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権

報告：岡　芳樹

チームリーダー：岡芳樹
選手：山谷武繁、岡芳樹、横井清順、古賀光晴、川村眞、東武瑞穂、茂呂可寿美
開催地：チェコ・クンチチェ
日程：2011年7月22日～7月30日

今年のアキュラシー世界選手権は、チェコ共和国の首都プラハから東へ約280kmのクンチチェ村で開催され、15ヶ国から84名（内女子25名）の選手が参加した。

日本からはチーム枠いっぱいの男子5名、女子2名が参加。日本としては、3回目の世界選手権参加となる。そろそろ結果を出したいところだ。

日本チームメンバーは、選手権が始まる3日前に現地に到着。今回の宿泊は、全選手が大会本部が設置されたバカンス村にあるシャレーあるいはホテルだ。全員が同じ場所にいるので、各国との交流が行え、主催者も連絡が付きやすいので非常に便利であった。

日本チームは予定通り、練習を兼ねて、選手権直前に行われたチェコ･オープンに参加した。2日間の日程であったが、あいにくのコンディションで、1ラウンドの途中で終わり、選手全員が1本飛ぶことができなかったため不成立となってしまった。また、ジャッジの質も高くないので、世界選手権には、少し心配が残る。

そして世界選手権が始まる。今回からはヘルメットだけではなく、ハーネスも認証登録済のものでなければ使用できないことになっているが、予想通り（？）、登録されていないハーネスを使用している選手が多数いる。大会開催も危ぶまれたため、急きょセーフティディレクターが安全性を認めれば、そのようなハーネスも使用できることになってしまった。日本チームとしてはプロテストも考えたが、大会の開催も考慮して遺憾の文書を提出することで我慢した。

大会は、ヨーロッパ東部に居座る前線の影響で、雨が降るか風が強いかで、ウエイティングの連続となる。結局1日に1ラウンドを消化できたのは初日の1日だけ。8日間で成立はたったの4本。したがって最悪の1本を落とすこともできず、1本目に1000点を出してしまった山谷選手は、他のラウンドが良かっただけに残念な結果に終わってしまった。女子では、今回世界選手権初参加となる東武選手が善戦したが、4本目で転んでしまったのが痛かった。国別では、残念ながら前回同様6位どまり。点数的には、前回の3位に匹敵するものであったが、世界はさらに進歩していることを実感させられた。次回、表彰台を狙うには、チーム得点に絡む4名が如何に実力を発揮しパッドを踏み続けるかにかかってくる。

競技内容はいまいちであったが、期間中に開催された各国お国自慢料理コンテストやアジアの国々との交流が持てたことが収穫であった。これまでは、東ヨーロッパが抜きんでている感があったが、中国、インドネシアの台頭があり、これからはアジアも侮れない存在になってくる。来年、台湾で開催されるアジア選手権が非常に楽しみである。

［総合］
1位　Anton Svoljsak（スロベニア）
2位　Xiaoqiang Yang（中国）
3位　Jaka Gorenc（スロベニア）
4位　Pavlo Marinkovic（セルビア）
5位　Martin Ondrasek（チェコ）
6位　Dede Nisbah（インドネシア）
17位　岡　芳樹
35位　川村　眞
37位　山谷　武繁
48位　東武　瑞穂
65位　茂呂　可寿美
76位　古賀　光晴

［女子］
1位　Marketa Tomaskova（チェコ）
2位　Milica Marinkovic（セルビア）
3位　Milica Bicanin（セルビア）
8位　東武　瑞穂
15位　茂呂　可寿美

［国別］
1位　スロベニア
2位　セルビア
3位　中国
4位　インドネシア
5位　チェコ
6位　日本

勝つためにはパッドを踏み続けねばならない

1・3位にスロベニア

女子は東欧製圧勝

横井清順、慎重にパッドを狙って……

日本チームメンバー

国別表彰。頭角を表してきた中国が3位に

個人・国別ともに4位に

第18回FAIハンググライディング世界選手権

報告：北野正浩

チームリーダー：北野正浩
アシスタント：鈴木皓子
選手：大門浩二、板垣直樹、太田昇吾、平林和行、氏家良彦、鈴木由路
開催地：イタリア・モンテクッコ
日程：2011年7月19日～7月29日

モンテクッコは2008年にクラス1女子・クラス2・クラス5の世界選手権が開催されたエリアである。本来、7月後半は晴天が続きフライト確率の高い時期であるが、今年は北海で発生した低気圧がヨーロッパ全体を覆ったため、前半はアフリカの高気圧との巨大な温度差によって強風が吹き荒れ、後半は温暖前線が停滞して雨が続いた。このため、競技成立はわずか2本であった。

1本目の競技は大会4日目の7月22日、モンテクッコ周辺で予測された雲の過剰発達を避けるため、南に30kmほど離れたモンテスバシオで行われた。117.8kmのタスクで、プリモシュ・グリチャラ（スロベニア）が2位以下に5分の差をつけてゴール、その後アレックス・プロナー、クリスチャン・チエクのイタリア勢が続き、5番手に日本の大門浩二が入った。最大の難所・第3ターンポイントでは、強風のため丘の上のターンポイントが取れず、多くの選手が脱落した。ゴール者は選手150人中わずか21人。日本勢のゴールは大門1名だったが、太田昇吾の総合23位など健闘し、国別で5位につけた

その後も悪天候が続き、大会8日目の7月26日に2本目が成立。モンテクッコから出発した110.9kmのタスクは、第3ターンポイント付近で雨雲が発生し、途中タスクストップの可能性も懸念されたが、選手たちが到達する頃には降り止み、無事成立した。この第3ターンポイントの往復が非常に渋い条件となったため、多くの選手がひと塊になって進むことになった。その中を、クリスチャンとアレックスの2人は集団と関係なく独自のルートを進み、3位以下に7分の差を付けて相次いでゴールした。大門は6位でゴールし、総合順位を4位に上げた。日本の国別順位も一つ上がり4位に。2本成立したところでデイリートップの合計点が1500点を超えたため、この時点で世界選手権は成立した。

翌日以降も雨が続き、最終日の7月29日は朝から晴れて成立の可能性があったが、競技開始直後にテイクオフの風が不安定という理由でキャンセルが宣言された。これで今年の世界選手権の競技は終了した。

大門の4位と国別4位は、ともに史上最高位であり、日本のハンググライダー競技のレベルが世界のトップに肉薄していることが証明された。表彰台を狙うのは、絵空事ではなく現実の目標となってきたと言える。

［個人］
1位　Alessandro Ploner（イタリア）
2位　Christian Ciech（イタリア）
3位　Primoz Gricar（スロベニア）
4位　大門　浩二
5位　Elio Cataldi（イタリア）
6位　Manfred Ruhmer（オーストリア）
7位　Andre Djamarani（ドイツ）
8位　Grauco Pinto（ブラジル）
9位　Antoine Boisselier（フランス）
10位　Gerd Doenhuber（ドイツ）
23位　太田　昇吾
27位　鈴木　由路
33位　板垣　直樹
46位　氏家　良彦
64位　平林　和行

［国別］
1位　イタリア
2位　フランス
3位　オーストリア
4位　日本
5位　イギリス
6位　スイス

選手の声

□4位　大門浩二

私にとって、今回は8度目の世界選手権でした。モンテクッコは慣れたエリアであること、また機材も調子がよく、あとは自分次第であると思い「トップ10に入る」ことを目標に掲げました。10位以内でなかったら今後の世界選手権には出場しないことも決めました。

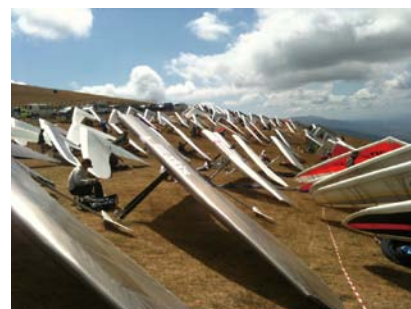
結果、個人総合成績４位。目標は達成したものの、表彰台まであと一歩と悔しさが残り、タスク成立数も2本だけという、微妙に満足しきれない幕切れでした。しかし、振り返ると、4位になった理由やもっと上位にステップアップできる方法も理解できたので、大きな「あと一歩」だったと思います。

世界のトップパイロットと日本のパイロットの差は決して大きくないことも、今回結果として見て取れたと思い

太田昇吾、モンテスバシオからテイクオフ

日本チーム。家族の応援も

トップ3。アレックスが連覇

国別もイタリアが連覇を果たした

150機がズラリと並んだテイクオフポイント

ます。基本的には、早く高く、効率良くと言ったソアリング技術やクロスカントリーフライトのセオリーを確実に身につけて、気象判断とリフトの存在をいち早く把握し、競技としての戦術と判断を的確にして高い意識で勝負する、といった本当に当たり前のことの精度を高めていくことが重要であることを再認識できました。

技術、知識、機材、環境すべての小さな事柄一つ一つの精度を上げ、個人の精神的な意欲を上げていくことが世界チャンピオンへの第一歩です。

今後も競技を続けて行くつもりですが、競技を楽しむためのサポートやこれまでの経験のフィードバックなどもしていきたいと思っていますので、気軽に声をかけていただいたり、そういう場を設けていただければ幸いです。

大門浩二、4位入賞。一際大きな拍手が沸き起こった

世界選手権報告会

JHFでは、2011年開催の三つの世界選手権に出場した日本チームの報告会を計画中です（9月上旬開催の予定でしたが大型台風襲来のため中止しました）。PG、PGアキュラシー、HGの日本代表から、世界の競技について聞きます。日程・会場等が決まり次第、JHFウェブサイトでご案内しますので、ぜひご参加ください。

4日間すべてレース成立

2011パラグライディング日本選手権 in 鳴倉

報告：競技委員長　文字　英彰

開催地：新潟県鳴倉山フライトエリア
日程：2011年6月9日～6月12日

日本海から約50kmの内陸で南北に伸びる山並みを約30kmに渡ってフライトできる新潟県屈指のサーマルエリア鳴倉は、ビッグタスクを組むことが可能なポテンシャルの高いエリアで、選手からの開催の要望も多く、待望の日本選手権の開催となった。

初日、天気予報は開催期間中唯一の快晴予報で好条件が期待され、南北約15km間をアウトアンドリターンし約25km南へゴールへする69.4kmのレースタスク。選手たちはエアースタートと同時にスタートを切り、サーマルはバンバンのコンディションで、15時2分、山口翔選手と若山選手が並んでゴール。その後、次々とゴールに入ってくるが、ちょうどその頃から南の山奥では積乱雲が発達し雷も聞こえ始め、15時36分タスクストップ。規定で10分前に戻されるため数名の選手がゴールを認められず結果ゴール者は9名に終わった。

2日目、前日の天気予報は雨だったにも関わらず、晴天！　予報では昨日より早めのサンダーストームが予想されるということもあり、タスククローズを15時に設定し、少し短めの八海山アウトアンドリターン中心とした48.5kmのレース。少し渋いコンディションで始まったが、日本選手権の選手たちは流石にしっかりと上げていき、ほとんどの選手が一斉にスタート。その頃にはコンディションも整い、トップがどんどん入れ替わるデッドヒートが繰り広げられた。そしてファイナルグライドでトップを走っていた阿知波選手を、常に低く走っていた川上選手がわずか1km手前で捉えそのままゴール。その後続々と39名がゴール。これで今年度の日本選手権の成立は確定。後は残り2日で誰が日本選手権を手にするかということだけ。

3日目、前夜から降りだした雨は予報より少し遅れて昼前まで降り続いたが、劇的な回復。待ちに待った14:45にゲートオープン。タスクは30km弱のエラップスタイムゴールレース。渋い中を生き残った選手がなんとか16km余りをフライトしたが、デイクォリティー 0.217（トップの得点が217点）での成立。

最終日、予報は大きく変わり朝からドン曇り。それでも鳴倉のエリアポテンシャルを信じ、八海山アウトアンドリターンで南へゴールする36.9kmのレースタスク。今日も渋い中を生き残った選手がなんとか17km余りをフライト。しかしミニマムをクリアする選手が少なくデイクォリティーは0.065（トップの得点が65点）での成立。結果、阿知波広和選手が逃げ切り日本選手権者のタイトルを手にすることとなった。女子日本チャンピオンは今年度も平木啓子選手だった。

［総合］
1位　阿知波　広和　愛知県
2位　加藤　豪　　兵庫県
3位　山口　翔　　山形県
［女子］
1位　平木　啓子　静岡県
2位　伊藤　弥生　奈良県
3位　中目　みどり　東京都

勝者の声

□日本選手権者　阿知波広和

パラグライダーを始めて24年。チャンピオンになるなんてJリーグに出始めるまでは考えもしませんでした。

鳴倉のエリアポテンシャルに期待してテイクオフ

阿知波・平木両選手権者

強い陽射しの下でブリーフィング

待望の鳴倉日選に張り切って参戦

今までフライトしてきた環境のせいもあるのか、鳴倉での大会は毎年成績がよかったので、今年の日本選手権はチャンスと狙っていました。優勝できて、本当に嬉しかったです。

また、世界選手権での不幸な事故もあり、今後、Jリーグはシリアルクラスのグライダーでの大会となるので、これまで競技に興味の無かった皆さんも、門戸が広がったと思って参加し競技を盛り上げていただけるとさらに嬉しいですね。

□女子日本選手権者　平木啓子

鳴蔵では、今回初めて飛ばさせていただきましたが、エリアのスケールと驚異的なフライト確率に驚きました。その鳴倉で女子優勝することができ、とても嬉しいです。

いつも応援してくださる方々、開催に尽力されたオーガナイザーの方々に大変感謝しています。

2011 ハンググライディング日本選手権 in 足尾（速報）

10月6日～10日、茨城県足尾山エリアで開催のHG日本選手権は4タスクが成立。厳しく追い上げる大門浩二を7点差でかわして、太田昇吾が初の日本一を勝ち取った。女子日本選手権者は内田秀子に決定。

普通のスポーツ競技会の風景を

2011パラグライディングアキュラシー日本選手権 in 南陽

報告：競技委員長　金井　誠

開催地：山形県南陽スカイパーク
日程：2011年9月24日・9月25日

各地に大きな被害をもたらした台風15号の影響で、メインランディングは冠水、周辺道路も通行止めとなっている状況で、開会の日を迎えました。「スカイフェスティバル in 南陽」は、競技会（今回はアキュラシー日本選手権）と、一般の方にも空を楽しんでもらうイベントの2本立てで毎年開催してきましたが、初日のイベントは中止せざるを得ませんでした。

しかし、日本選手権は何としても開催したいと、急遽近くの休耕地を借用して急いで準備を進めましたが、十分一山テイクオフの風向きが変わり始め、テイクオフも高ツムジ山に変更。午後3時過ぎからようやく1R（ラウンド）のフライトができ、世界選手権日本代表の山谷選手がさすがの0cmでラウンドトップ賞を獲得しました。

翌日は午前6時に集合、置賜盆地を覆う秋特有の雲海が晴れてから2Rを開始。しかし3Rの途中で東からの荒れ風が入って来て、残念ながら競技はキャンセルになりました。

結果は2R合計で7点という好成績で塚原隆信選手が優勝。また総合でも3位の東武瑞穂選手が女子日本選手権者の称号を得ました。

初日の夜の歓迎レセプションでは7月の世界選報告が行われ、日本のレベルも上がっているが世界のレベルも上がっていて、今後日本チームの入賞はたやすいことではないこと、そして今回参加した大勢の学生スタッフに向けて「若い力の挑戦を」と強いアピールがありました。

2日目は競技会・イベントともメインランディングで予定通り開催でき、大勢の一般の方々がランディングに足を運んでくれました。イベントは「みんなで空を楽しもう」と題して、熱気球係留体験、セーフトーシステムでのハング体験、大凧揚げ、ラジコンヘリアクロバットショー、スタントカイトショー、手作り凧揚げと様々なものが空を飛び、同時に山形の秋の名物いも煮などの露店が並びました。小さな子どもからお年寄りまで秋の空を楽しむ中で、この日本選手権を開催しましたが、好スコアには会場から大きな拍手が贈られ、思わず涙ぐむ選手もいました。「普通のスポーツ競技会」の風景を見ることができたと思います。

ハング・パラの競技の中で唯一オリンピック種目になりうる競技として、アキュラシーリーグを活性化させることが、スカイスポーツ全般の活性化にもつながるとあらためて認識した2日間でした。

［スクラッチクラス総合］
1位　塚原　隆信　茨城県
2位　横井　清順　静岡県
3位　東武　瑞穂　千葉県

［スクラッチクラス女子］
1位　東武　瑞穂　千葉県
2位　内田　薫　埼玉県
3位　松谷　香　山形県

［ハンディキャップクラス］
1位　古田　岳史　埼玉県
2位　内田　薫　埼玉県
3位　工藤　修二　埼玉県

［ルーキークラス］
1位　柳井　邦弘　埼玉県

ターゲット中央のパッドを狙って真一文字

台風一過の青空。競技は2日で2Rが成立

ハンググライダー体験は大人気

スクラッチトップ3

スクラッチ女子トップ3

ハンディキャップトップ3

ルーキートップ3

学生1位の若生

選手・役員全員で「おつかれさま！」

2位　関根　靖明　神奈川県
3位　山田　敏之　宮城県
［学生］
1位　若生　健太郎　青森県

勝者の声

□日本選手権者　塚原隆信

日本選手権に優勝し、とても嬉しく光栄に思っています。これまでサポートしてくださった方に、少しは恩返しができたのではないかと感じています。

アキュラシー大会に初めて参戦したのは、3年前の『日本選手権 in 南陽』でした。そして今年、同じ南陽の地で日本一になり、初参戦の時を思い出し、少なからず感動しています。

今後、日本選手権者（日本一）として、すべてフライヤーの良き見本になれるよう、安全に心がけ楽しいフライトをしていきたいと思います。

□女子日本選手権者　東武瑞穂

今大会で、日本選手権3位また女子優勝という好成績を収められたこと、大変嬉しく思います。今回は天候の関係で2ラウンドしか成立しませんでした。たまたま自分の順位がよかった時にラウンドが終了し、運がよかったなと感じました。また、少ないラウンドで成績を残せたことは、先の世界選手権での経験が役に立ったと思います。今後、ラウンド数に関係なく、常に上位にいられるように頑張りたいと思います。

アキュラシーについてたくさんアドバイスをくださる先輩方、いつも応援してくださる皆さん、練習に協力してくださるイーストジャパン並びにスカイ朝霧の皆さん、皆さんのお陰でこの様な成績を残すことができました。いつもありがとうございます。これからも頑張ります。

おいでませ！山口国体スポーツ行事ハング・パラグライディング競技

毎年開催される国民体育大会に、開催地のJHF正会員（都道府県連盟）が全面的に協力し「デモンストレーションとしてのスポーツ行事」として参加しています。

正式競技になるために必要な日本体育協会への加盟も視野に入れ、JHFも助成金協力をしています。2011年は9月10日、11日に山口県周防大島橘ウインドパークにてハンググライダー、パラグライダーのターゲット大会が開催されました。

以下は、山口県ハング・パラグライディング連盟事務局、岡部英世さんの報告です。

競技参加者60名（県連参加者30名）
競技役員　29名（この人数は県連関係者のみです）

アキュラシー種目は当エリアでは初めてであり、審判のスタッフグループは前日、当日の早朝とグランドに出て綿密な打ち合わせを行った。

午前10時30分に開会式を行い、周防大島町岡村春雄副町長、周防大島町平田武教育長、山口県ハング・パラグライディング連盟の山野亨理事長、日本ハング・パラグライディング連盟の内田孝也会長の挨拶を頂いた。その後、江本競技委員長の大会注意事項の説明で開会式を終わる。

競技が始まるまではランディングの傍でハンググライダーのセイフティートーイングの体験会を坂本三津也さん、北野正治さんが行ってくれました。10日、11日と2日間で40余名の方々に空を飛ぶというミニ体験をしてもらい喜んでもらえました。子供達も何人かは試乗したので、「私も、僕も空を飛びたい」という夢が、将来に繋がれば大成功となるでしょう。

■ハンググライディング競技

参加機体は10機なので先に競技を開始することにした。

ターゲットに降りるということは、低く滑空するために建物などに接触して事故を起こす可能性もあり、今回は運動会で玉入をする玉をターゲットに向かって投下する方法を取った。また、玉を投下して滞空時間が1分以上の規定を設けた。

ハンググライディング部門
１位　高見　正治（広島県）
２位　崎山　和弘（広島県）
３位　大竹　直樹（岡山県）
となった。

■パラグライディング競技

約1分間隔でテイクオフしてくるパラグライダーが、次々に降りて来て、ターゲットを狙う様はとても面白く、40人以上はいた観客も、その席から、もう少し、もう少し、わーぁ残念！とか、スゴイ！とかの声援を送っていました。

このような事を普段目にしない一般の方々には目で見て楽しい競技ではないかと思いますし、とても一般受けする競技であると思います。

競技運営は結構大変でしたが、国体デモスポを開催するという山口県連前理事長の土屋さんの選択は間違っていなかったと再認識しました。（脱帽）

パラグライディング部門
1位　伊藤　健　（岡山県）
2位　足苅　良彦　（広島県）
3位　松田　博文　（岡山県）

表彰式は午後4時過ぎに行い閉会式は午後5時近くになってしまいました。無事に終わってなによりでした。

アキュラシーに観客も熱中した

玉をターゲットに投下

HG部門トップ3

PG 部門トップ３

競技を終えて全員集合。

東日本大震災被災地復興応援プロジェクト「空はひとつ」

東日本大震災からもうすぐ8ヶ月が経とうとしています。季節は巡り、そろそろ被災地には白いものが舞い始めることでしょう。

JHFは、フライヤー仲間だけでなく、いつもフライトを暖かく見守ってくださる地域の人々が一日も早く穏やかな暮らしに戻れるよう願い、被災地復興応援プロジェクト「空はひとつ」を展開しています。

JHFレポート194号発行以降の活動について報告しましょう。

■義援金

JHFレポートやJHFウェブサイト等の呼びかけに、全国のフライヤーの皆さま、正会員（都道府県連盟）、スクールやクラブの皆さまが応じてくださいました。7月26日の時点で73件2,720,666円が集まり、全額を日本赤十字社を通じて被災者の皆さまへ寄付させていただきました。ご協力くださった皆さま、ありがとうございます。

復興には長い時間と莫大な費用がかかります。今後も義援金を募っていきますので、さらにご協力いただければ幸いです。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行（銀行コード0005）
巣鴨支店（店番号770）
口座番号　普通　0017991
口座名義　社団法人日本ハング・パラグライディング連盟
シャ）ニホンハングパラグライディングレンメイ

■缶バッチ

前号でお知らせしたように、応援の缶バッチを制作しました（写真）。2個500円で、スクールやクラブ等で販売

していただきました。1,000個作成しましたが、すぐ完売となりました。売上金は義援金として寄付します。こちらも皆さまのご協力をいただき、ありがとうございました。

現地の状況がよくわからず、漠然とした心配をしてきた方は少なくないはず。エリアがどんな様子か、フライヤーはどうしているか、特に大きな被害を被った岩手県、宮城県、福島県の各県連盟から、報告をいただきました。

岩手県ハング・パラグライディング連盟より

この度の東日本大震災に際し、皆様方には義援金や応援プロジェクトなどを通じて物心両面の援助をいただき、感謝申し上げます。

3月の大地震は、信じられないほどの大きな揺れに大津波を伴い、沿岸各地に甚大な被害をもたらしました。県内には三陸海岸に近いエリアもあり、フライヤー各位の安否が心配されました。しかし当時は、交通網は遮断し、電気・水道・電話などのライフラインも全く機能していませんでした。暫くの間、携帯電話も繋がらず、フライヤー全員無事の確認を取るまで1ヶ月近くの長い期間を要しました。

フライヤーは全員無事だったものの、身内を失った方、自宅や職場が被災した方など、残された大きな爪あとを目にすると、飛んでなんかいられないという思いや、後ろめたさを感じました。エリアを管理する方々は、エリアの再開について暫く悩んだと聞いています。

スタートは遅れましたが、現在は全エリアが稼働しています。大震災から半年経過した今日、沈んでばかりもいられない！

「がんばろう岩手　2011スカイフェスティバル in 安比」を開催し、北東北4県を中心に大勢の仲間が集い、お互いの無事を確認し励ましあい、明日に向かって生きる事を誓いあいました。

おかげさまで、被災地のエリアやフライヤーは、いま徐々に動き始めています。（報告：中村一海）

「がんばろう岩手　2011岩手スカイフェスティバル in 安比」に大勢が参加

互いに無事を確認、励ましあった

Xアルプスの報告も

沈んでばかりもいられないと、被災地のフライヤーも動き始めた

宮城県ハング・パラグライディング連盟より

[東日本大震災後、宮城県連の今]
忘れられない【3.11】、あまりにも悲惨な光景、言葉がありません。
過酷な状況下でも心が熱くなるシーンも沢山ありました。
尊い命の大切さ。
生存した方々から願いをこめて……。
被災地での復興を願う舞。
皆が復興に向けて立ち上がっています。

先日、東京から《東北頑張れ集団》が来仙し、タンデムフライトを楽しんでもらいました。着々と目に見える形で復興へ向けた歩みが始まっています。県内の各スクールもそれぞれエリアの特徴を活かした活動を始めております。

全国フライヤーの皆さんへ、牛タン・ずんだ餅・海産物・笹かまぼこ＆日本酒等々美味しいものがいっぱいの宮城県エリアへどうぞ飛びに来てください。空を愛する楽しい仲間達が歓迎します。
"みやぎさござい ん"（どうぞ宮城へいらっしゃい）。

復興を祈願する舞い。撮影：下枝長年

東北頑張れ集団の皆さまと

あまりにも悲惨な光景のなかにも心が熱くなる場面がありました。撮影：下枝長年

現在震災の影響で飛べないエリアは、石巻・トヤケ森山の「うまっこ山エリア」
http://www9.ocn.ne.jp/~sun-life/area.htm#ishinomaki
亘理・鳥の海「モーターパラグライダースクール　亘理荒浜」
http://www.soma.or.jp/~kunio/PARAGDER/PARAGDER.HTM
です。

福島県フライヤー連盟より

今年度は東日本大震災の影響で各地で大会やイベントが中止されていますが、スカイスポーツも例外ではありません。しかし、いつまでも震災に振り回されていたのでは少しも前に進みません。気持ちだけでも前向きに頑張りましょう。

現在、福島県連加入者はハング・パラグライダー合わせて約100名が登録しています。東日本大震災では被害を直接受けたメンバーがおり、その後の原発問題など、メンバーだけでなくエリア等にも大きな被害が出ました。

震災後、各スクール、クラブを中心に今後の活動を話し合い、5月8日には1ヶ月遅れで県連総会が開催されました。

その中で田村市あぶくまエリアが震災による道路事情により、無期限のエリアクローズ。二本松市羽山エリアは、原発問題によりスクール・無期限の活動中止。

しかし、『がんばっぺ・福島』をモットーに、県連では、福島体育協会や各市町村の応援を頂き、会員を中心に活動を行っています。

猪苗代町・猪苗代パラグライダースクールは、通常通り営業。8月には、『猪苗代パラグライダーカップ』を開催。

喜多方市・三ノ倉パラグライダースクールは通常通り営業。10月には、『米こめカップ』開催予定。

二本松羽山エリアは、クラブ運営で活動開始。

県連行事では、8月にパイロット学科試験（猪苗代）を開催。9月に『大矢杯HG・PG大会』を仙台平エリアから三ノ倉エリアに変更して開催。11月に安全講習会・XC学科試験や教員・助教員更新講習会を開催予定……など。これからも安全で楽しいフライトを行いたいとの思いで活動を行っています。

秋のシーズンに入り、紅葉がすばらし福島に是非、遊びに来てください。
※猪苗代、三ノ倉エリア共に放射線量は、0.15マイクロシーベルト以下で問題ありません。

日本の空を元気に！『JHF動画コンテスト』開催のお知らせ

パラグライダーやハンググライダーが映っている、空を飛ぶ楽しみを伝えられる動画作品を募集します。
□テーマ：発見！飛ぶって最高！！
□作品時間：ショート部門（1分以内）
　　　　　ロング部門（5分以内）
□募集締切：2012年5月31日必着
□賞金総額：30万円
□応募資格：プロ・アマ・個人・団体は問いません。
□その他：未発表の作品に限る。複数の応募も可能。応募に伴う費用は応募者の負担とします。

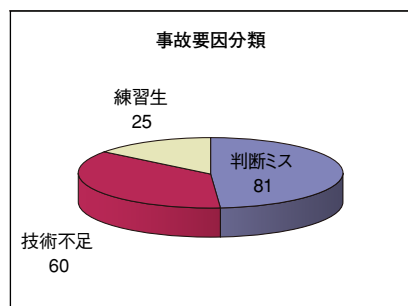
詳しくは、後日JHFウェブサイトとJHFレポートでお知らせします。

安全に飛ぶために

「事故の事例と原因分析」から

JHFではパラグライディング・ハンググライディングにおける安全性確保のために、国内で使用される機体の型式登録推進の他に、このスポーツで発生した事故についての「事故報告」システムを設け、事故情報の把握に努めています。これまで、これらの情報を集計したデータをもとに、安全関連記事としてJHFレポートに掲載してきました。

今回は、2011年JHF教員検定員研修検定会での安全性委員会による講義「事故の事例と原因分析」の内容を要約してお伝えします。講義では2002年から2010年までのパラグライダーによる事故データ合計166件をもとに、事故のきっかけとその内容についての考察が行われました。

それによると、事故166件の要因は大きく分けて、判断ミスによるもの81件と技術不足と思われるもの60件に二分されます。いずれもほとんどがP証以上のパイロットによるものです。これら以外の約25件は練習生によるものでした。機体の故障等が原因とされる事故データはありませんでした。

「判断ミス」及び「技術不足」によるものと分類された事故が、それぞれパラグライディングのどの段階でのミスであったかが事故データをもとに検討されました。その内容を見てみましょう。

■判断ミスに分類された81件のミス内容：

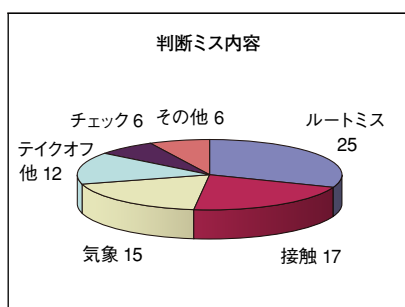
・LDゾーン確認、ランディングアプローチ高度など、ルートに関する判断ミスと思われるもの25件。

・空中接触に至る周囲警戒ミスによると思われるもの17件。

・不安定な風または強風（5m/sec以上）でのフライトなど気象に関する判断ミス15件。

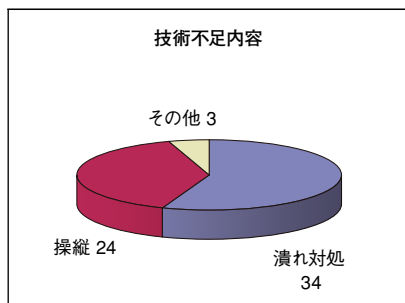
・テイクオフのタイミングまたは中止、アクセル使用などにおける判断ミス12件。

・ラインのからみやレッグベルトの付け忘れなど、テイクオフ直前でのチェックミスによるもの6件。

これら判断ミスに分類された81件のうち13件が死亡事故でした。

■技術不足に分類された60件のミス内容：

・キャノピーの潰れへの対処が不適切であったと思われるものが半分以上（56%）で34件。

・一般的な操縦ミス（ブレークコード引きすぎ、急旋回、翼端折り失敗など）と思われるものが24件。その13件が失速を招いている。

技術不足に分類された60件のうち20件が死亡事故でした。

■事故ゼロに向けて

2010年の事故情報件数は2、3年前までの平均20件と比較して大幅に減少し11件でしたが、空中を移動するスカイスポーツである以上、パイロット自身による注意深い操作なくして安全性が確保されるものではありません。また、事故による傷害は決して軽微に終わるものではありません。

上記の事故要因項目が示すように、テイクオフの準備段階からランディングに至るまでのどの過程においても、その時々の判断ミス、技術的なミスが事故につながっています。プレフライトチェック、テイクオフに適切な風向風速の確認、風向に正対した確実なテイクオフ、旋回時の周囲警戒、リッジ・サーマルリフトの周囲の下降気流、キャノピー変形の兆し察知とその対処、ランディングに向けてのグライドパスと高度、フレアーのタイミングなど、いずれもおろそかにできるものではありません。

どのエリアに出かけても、基本を決して忘れず、自分に適した判断を下し、常に安全マージンを維持して、あらゆる条件変化に即応できるような心構えでフライトすれば、パラグライディングは安全でしかもダイナミックに楽しめるスカイスポーツであり続けるでしょう。

危険性をゼロに近付けるために

自分の力で空を飛ぶことの素晴らしさを、フライヤーは知っています。その感激に人生観が変わった人も少なくないでしょう。スカイスポーツは刻々と変化する自然に溶け込んで楽しむからこそ、地上では味わえない喜びを得ることができるのです。しかし、自然の力は強大であり、気象条件の急変などによって危険な状況にはまってしまうこともあります。

そんなとき、冷静に判断し適切な対処をするためには、技術・知識・経験がものを言います。そして自分の能力いっぱいいっぱいではなく、常に余裕（安全マージン）を持ってフライトすることも大切です。能力の98%で飛ぶ人は、予期せぬトラブルに遭遇したとき、対処のために残りの2%しか投入できません。あなた自身の危険性をゼロに近付けるため、どんなときも余裕を持ったフライトを心掛けましょう。

最近のハンググライダー事故の傾向と対策

安全性委員長　桂　敏之

30数年に及ぶ日本のスポーツハンググライディング活動の中で、最近は大事故や重傷事故の発生件数が減少しています。これは機材や愛好者技量レベルの向上に負うところが大きいとともに、愛好者人口の減少と淘汰もその要因と思われます。つまり良くも悪くも成熟化が進んだ結果というわけですが、事故の発生件数だけでなくその内容にも最近の特徴が見られます。

以前は技量や判断の未熟が原因となる初中級者の事故も多かったのですが、最近は経験を積んだ高技量者が大事故に遭遇する例が目立ちます。これは、エリア管理や教習技術の向上によって初中級者の事故を防ぐことができるようになったのに対し、経験者の技量や判断のレベルがそれほど向上していないからではないかと思われます。今までは99%無事に済んでいたような例も長年の活動の中でいつかは大事故になる、しかし1%の危険性を回避できるほどには経験者の技術も判断もレベルの向上がない、ということではないでしょうか。

もはや大事故の大きな要因となったこの点に対処するには、より安全性を意識した判断と離着陸技術の向上が求められます。安全性を意識した判断として、以下の3点を挙げます。

まず、99%無事に済んでいたような、それでもギリギリと感じる飛行条件でのフライトについて、今後は無理をしないという判断です。これは離陸判断だけでなく飛行中の判断も含みます。1%の確率でも結果が重大事故につながるものは冒険せずに避けるべきです。すでに多くのパイロットがこの1%を峻別できる経験を積んできたはずです。常に100%の安全を意識してください。

次に機材の整備、調整と点検です。各パイロットの安全のみならず上達と楽しいフライトのためにも、優れた専門家による機材の整備・調整は絶対に必要です。また各パイロットによる確実なプレフライトチェック＝飛行前点検も絶対に必要です。機体の取扱説明書もあらためて目を通してみてください。取扱説明書に記載されているプレフライトチェックは必ずあなたを守ってくれます。

三点目はお互いのサポートです。これは安全意識の問題でもあります。危険なフックアウトや離陸失敗の予防、あるいは困難な条件での着陸サポートなどを積極的に行い、できればルール化してください。

この他にも、これから注目される事故要因として健康管理や高齢への対処が挙げられます。すでにセールプレーン（グライダー）ではそうであったように、優れたパイロットといえども飛行中に心臓発作や何らかの原因による人事不省/意識不明に陥り大事故に直結する危険性があります。高齢者以外も、健康管理がタイトな働き盛り世代も注意してください。

SIVトレーニングのこれから

安全性委員　伊尾木浩二

JHFでは、安全啓蒙活動の一環として、教員・助教員を対象に9月5日～7日長野県木崎湖にてSIVトレーニングを開催しました。指導には、安全性委員会の伊尾木浩二委員と目黒敏委員があたりました。

今回は案内が行き届かず、参加者も限られましたが、今後も引き続き開催を計画していきます。

以下は、教員検定員でもある伊尾木浩二委員の報告です。

今回のSIV（マヌーバー）トレーニングには、日頃指導する立場の教員・助教員の方々が、スクール業務の忙しい中で参加してくださいました。パラグライダーの挙動、リカバリーなどをしっかりと経験して、過去の事故状況を含めて議論なども行いました。

■SIVとは

SIVとは【Simulation d'Incident en Vol】というフランス後の略語であり、日本語で【フライト中のアクシデントのシミュレーション】という意味です。SIVトレーニングとは、乱気流による潰れを想定し、パラグライダーの翼の動きを把握して適切に対応することが目的となります。結論をいうと墜落事故を起こさないようにするための予防トレーニングです。

最後の切り札として緊急パラシュートを開傘し墜落事故を防ぐトレーニングを湖上で実際に行うこと、また体育館などでスピンをシミュレーションしハーネスからレスキューパラシュートを放出するトレーニング、これらもSIVトレーニングです。

近年も続くパラグライダー事故では、特に潰れによる怪我、死亡などが多く、このような問題をゼロにするための動きとして、まずはSIVに対する知識・指導方法をJHFとして作り上げていきたいと考えています。

■SIVを行う場所

現在、日本の代表的なSIVのエリアは長野県木崎湖ですが、この場所でしかSIVはできないわけではなく、トレーニング項目の中身をレベル分けし、適切な気象条件、パイロットの技術レベルを考慮し、項目を絞ることにより、湖でなくても、リスクの少ない範囲でSIVを行うことができます。ただし、SIVの指導方法に関しては現在まとめている段階であり、欧州の情報も含めて日本の仕様で作り上げたいと考えています。

■落ち着いてフライトするために

パイロットがSIVトレーニングを行うことにより、想定外の潰れなど、瞬時に適切な対応を判断しなければならない時、気持ちの余裕を持つことができ

緊急用パラシュート開傘のトレーニングも

安全に飛ぶために

るでしょう。

また、基本SIVトレーニングについては定期的に管理下における場で行い、モチベーション、スキル向上を狙って安全に行えるシステムを構築したいとも思っています。

実際にパラグライダーは、誰もが乱気流を経験しながらフライトします。いつ、潰れるか完璧に予測することはできません。余裕を持ったフライトを行い、潰された時に判断と対応を適切に行えれば全く問題のない回復動作でも、操作を誤れば、旋回→スパイラルダイブ→急降下→墜落という重大事故につながります。

■19項目を予定

SIV項目とレベル分けについては、レベル1－3の3段階に分ける予定です。項目については現在次の19項目に分類しています。

ピッチング、ローリング、ウイングオーバー、スモールイヤー、ビッグイヤー、片翼潰し30%、45%、70%、フロントコラップス、Aフロントストール、Aフロントホースシュー、Bストール、ストールポイントの確認、フィギュアエイト、スパイラル導入（1周）、スパイラル2周、スパイラル連続、アシンメトリックスパイラル、スピン。

今後、SIVに関する教育内容を日本の各スクールのカリキュラムに盛り込んでいけるようにして、パラグライダーの潰れによる事故をゼロにすることを目的としたSIVトレーニングマニュアルを作り上げていきたいと考えています。

SIVトレーニングに参加して

PG教員　小泉秀典
（AIRFLOAT　P.G.S）

当初3日間のトレーニング予定が台風の影響で2日間で行う事となった。しかし、1日目は北風が強くトレーニングは中止。2日目は朝から弱めの南風が入り、この日だけで6本のフライトが行えレスキュー開傘まで一通りトレーニングの課題をこなす事ができた。

今回、特に注意をされたのがスパイラルからの回復であった。スパイラル降下練習時のブラックアウトの危険を減らすために、回復操作は引いているブレークを一気にフルグライドにするという事である。通常は回復時の大きなピッチアップを緩和するために、旋回のバンク角を浅くしつつ回復した方が良いと考えていた。しかし、ブラックアウトは一瞬のうちに起るので早めの回復動作が肝心ということが認識できた。これを今回のトレーニングで行ったことにより、ピッチアップの状態、その時の押さえの量、タイミング等を体感できた。

また、事故の中で大きな要因である片翼潰れに対する対応についても大きな収穫であった。ブレークコードを持ったままの片翼潰しと、ブレークコードをリリースした状態での片翼潰しのそれぞれの挙動の違いによるコントロールを、このトレーニングを通じて得ることがでた。

着水したらすぐにボートで回収

トレーニングで濡れたキャノピーを干す

トレーニングを終え、参加者・関係者集合

今回のトレーニングの参加者は私を含めて3名と少なかったが、青森、宮崎から来られた教員の方にエリアの状況、講習における問題点等のお話が伺え様々な情報を取得できたのも大きな成果であったと考える。

また、自分の指導方法・見直す必要がある課題を再認識する事ができて、非常に有意義なトレーニングであったと思う。

パラグライダーの安全性は向上しているとは言え、空を飛ぶスポーツである。いかに最小限のリスクで空を飛ぶ楽しさを教えるかは、教員に課せられた課題であると考える。

今後もこのSIVトレーニングを継続して行うことをJHFに望みたい。そして、今回のトレーニングを企画・立案し、現地で指導・サポートいただいた関係者各位にこの場をお借りして御礼申し上げます。

片翼潰し。SIVトレーニングによって、トラブルが起きたときに適切な対応ができる力をつける

保険について

フライヤー会員登録をすると、自動的に「第三者賠償責任保険」（個人賠償責任保険）に加入しています。
あなた個人のハンググライダー、パラグライダーでの操作、あるいは飛行に起因する事故で、他人の身体に障害または財物に破壊等を与えた場合、法律上の賠償責任を被った際に補償がされます。

ご自身のおケガの為には、『JHF総合保障制度』（フルガード保険特約付帯普通傷害保険）に、任意でご加入いただけます。

●フライヤーの皆さまの為の保険は

・「第三者賠償責任保険」
…JHFフライヤー登録時自動付帯の「賠償責任保険」
・『JHF総合保障制度』
…任意でご加入頂く「傷害保険」（引受保険会社：東京海上日動火災保険）

＊万が一の為、ご自身もしくはご家族を経済的な負担から守るためにも、保険を正しく理解しましょう。

●FAQ

保険について事務局、保険代理店へ問合せの多いご質問についてご紹介します。

Q：「第三者賠償責任保険」を使いたいのですが、どこに連絡をすればよいですか？
A：JHF事務局に下記内容をご連絡ください。請求連絡先をお知らせします。
・フライヤー No.
・事故の状況
・日時
・場所
・被害の程度
・他の賠償保険の加入の有無等

Q：『JHF総合保障制度』に加入しています。海外旅行中にパラグライダーとは関係なくケガをしました。保険金支払いの対象ですか？
A：『JHF総合保障制度』にご加入いただいていれば対象になります。

＊『JHF総合保障制度』では、国内外を問わず、パラグライダー搭乗中はもとより、仕事中や日常生活中の急激かつ偶然な外来の事故によるおケガおよび遭難の際にかかった捜索費用等の補償がされます。

Q：地震で本棚が倒れてケガをしました。対象になりますか？
A：『JHF総合保障制度』には、天災危険担保特約がセットされておりますので補償されます。

＊3.11の東日本大震災でのケガも、補償の対象となります。

Q：家族がパラグライダーで飛んでケガをして入院中です。フライヤー登録の保険手続きをお願いします。
A：フライヤー登録にて自動的にご加入いただいているのは「第三者賠償責任保険」です。対人、対物に対する賠償の保険ですので、ご自身のおケガや財物には補償されません。
『JHF総合保障制度』へのご加入の確認をします。ご加入でしたら保険手続きとなります。

Q：フライヤー登録の更新手続きを忘れてしまい有効期限が切れていました。すぐ手続きしましたが、登録が切れている間の「第三者賠償責任保険」の請求はできますか？
A：「第三者賠償責任保険」は、フライヤー登録が有効であることが必要ですのでご請求できません。

＊フライヤー登録の更新忘れ対策としては、自動口座振替もございます。ご希望の方は更新時期でなくても承りますのでJHF事務局にお問い合わせください。

Q：JHFレポート192号にもありましたが、「第三者賠償責任保険」の高額保険金支払いを避ける為にも他の賠償責任保険の加入の検討をお願いしますとありましたが、賠償責任保険とは具体的にどのようなものでしょうか？
A：賠償のための備えとしては、他の保険（火災保険、傷害保険、自動車保険など）に、特約という形で補償を追加することができます。追加保険料を払うことで日常生活で起こる偶然な事故による法律上の賠償責任にも対応でき、本人、配偶者、同居の親族等が対象になるそうです。
例えば、マンションの洗濯機排水が壊れ階下へ水漏れをした、買い物中に商品を落として壊した、自転車で駐車していた車に傷をつけてしまった等のトラブルによる法律上の賠償責任に対応しています。補償内容等詳しくは保険代理店等にご相談ください。

＊他の賠償責任保険のご加入があれば、フライヤー登録の「第三者賠償保険」だけでなく他の保険契約からもお支払いが可能な場合がありますので、他の賠償責任保険に関する正しい告知が必要となります。
ご協力よろしくお願いします。

Q：『JHF総合保障制度』に加入希望です。7月から1年間とのことですが、来年まで加入できませんか？
A：中途加入が可能です。ご加入ご希望の方は以下の保険代理店までご連絡をお願いします。
㈱東海日動パートナーズ・ノースワン（担当：奥野・佐伯）宛
TEL：03-6907-4622

＊その他JHF総合保障制度に関しご不明な点がある場合には、上記保険代理店までご連絡をお願いします。『JHF総合保障制度』のご加入にあたっては、必ず「重要事項説明」をよくお読みください。

2011年9月作成　11-T-05207

JHFからのお知らせ

■事務局が引越します。

現在の事務所は、耐震基準を満たしていないため年内に引越しを予定しています。
新住所：〒114-0015　東京都北区中里1-1-1-301　電話番号等はJHFウェブサイトやJHFレポート等でご案内します。

■事故報告のお願い

事故防止対策の一環として、アクシデント、インシデント集の作成を予定しています。重大事故として報告されていない事故、即ちヒヤリハット、インシデントの類がまだ多く見られると思われます。

ハング・パラグライディングのより一層の安全性確保を目指して、できる限り多くの事故関連情報をみなさまに提供できるよう、これらに関する報告もお寄せくださるようお願いいたします。

JHFサイトの「安全性委員会」の「事故報告」にある「事故を報告する」ボタンをクリックすると事故報告フォームが表示されます。比較的簡単な作業で各項目を記入することが出来るようになっています。
もしくは、FAX、メール等でご連絡ください。是非ご協力をお願いいたします。

■EN規格紹介DVD・日本語版作成

パラグライダーの安全規格・ENスタンダードについて、エア・ターコイズ社では、広報のため2009年に英語・フランス語・イタリア語・スペイン語などの多国言語のDVDをヨーロッパで無償配布しました。日本でも入手し講習会などで使用されていましたが、テレビ方式がＰＡＬ信号でした。このたびエアターコイズ社の承諾を得て日本語字幕版をＮＴＳＣ方式でDVDとして用意しました。
ご希望の方へは無料でお送りしていますので、枚数、送付先等をJHF事務局までご連絡ください。

■JHFステッカーを販売しています

JHFロゴにハンググライダーとパラグライダーの画像を加えたものと、ロゴのみのステッカーを二種類作成しました（ステッカーデザイン：ボランティア堀江譲氏）。2種類1セットを製造原価とほぼ同額の送料込み500円でお送りします。

ご希望の方は、□フライヤー会員No. □お名前 □注文セット数 □住所 □連絡先電話番号 □メールアドレスをメール、FAX、郵便などでJHF事務局にご連絡ください。入金確認後発送しますので、JHFの口座にお振込いただくか、50円又は80円の郵便切手で金額分をお送りください。

■住所変更届けのお願い

JHF事務局からお送りした登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻って来ます。住所を変更された方は、お手数をおかけいたしますが下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。
□フライヤー会員No. □お名前 □変更後のご住所 □連絡先電話番号 □メールアドレス

コンビニにて更新のお手続きをされる場合は、払込票の控えは事務局に届きません。払込票にて新しいご住所をご連絡いただく際はゆうちょ銀行にてお手続きください。

■口座振替のご案内

フライヤー会費は口座振替（自動振込）ができます。郵便局やコンビニに払い込みに行くことなく、更新忘れによる無保険飛行も防げます。年会費5,000円が4,800円で振込手数料もかかりません。
登録更新案内に、口座振替案内と申込用紙を同封していますが、更新時期ではない方も予めお申込みいただけますので、お問合せください。

■JHF備品を貸出しています

JHFでは下記備品の貸出をしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「フライヤーサポートデスク」→「各種登録申請貸出依頼」より各種貸出依頼書をダウンロードしていただき、必要事項を記入・入力して、FAXかメールにてお申込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

◇自動体外除細動器（AED）

公認大会やイベント主催者に無料で貸出。申込条件：消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ポロジメーター

キャノピー等のエアー漏れを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸出。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

◇スカイレジャー航空無線機

スカイスポーツ専用の周波数で使う無線機（465.1875MHz）。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のために貸出。貸出料は1,000円/台。
申込条件：ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無線従事者に登録している方が1名以上いること。

◇デジタル無線機

JHF会員の皆様に無料貸出。別途お知らせしましたデジタル無線機を、この度販売代理店のご好意により５台をお借りする事ができました。

■各種、お申込みやお問合せはJHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人　日本ハング・パラグライディング連盟
〒170-0002　東京都豊島区巣鴨3-39-4-2F
TEL:03-5961-1388　FAX:03-5961-1389
MAIL:info@jhf.hangpara.or.jp
http://jhf.hangpara.or.jp/

JHFレポート 195号
発行日：2011年10月25日
発　行：公益社団法人　日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）
編　集：JHF事務局
印　刷：日本印刷株式会社